

## 「公民的資質を伸ばす社会科指導の工夫」

### 【研究の内容】

#### (1) 第1回 7月19日(土)

- ①「思考・判断・表現」の観点の評価規準について、定期考査問題を持ち寄り、協議した。
- ②言語活動の工夫の中で、特に「表現」の場面設定、評価をどのようにしていくかを協議した。
- ③協議の中で、以下のことがまとめられた。
  - ・「思考・判断・表現」＝「読み解く力」。
  - ・「読み解く力」とは、「資料を取り出す力」「複数の資料を比較・関連付ける」「1つの事項の根拠を述べる」の3つと考えられる。
  - ・「何ですか」「どのようなですか(状態の説明)」「なぜですか」という発問を、教員が意識して行うことが大切である。
  - ・グループ活動の中で、生徒の思考を深化させていくことが大切である。評価場面は、生徒の言語活動を通して、変容している状況をつかむことが大切である。
- ④雨温図の作成や、年代別地形図の読解を教員が実際にやってみることで、「読み解く力」の指導をどのように行っていくかを協議した。
- ⑤先進事例として、「協同的な学習で深める言語活動とその評価—ヨーロッパ州を例に一」について都中社研研究部員より報告がされた。

#### (2) 第2回 12月13日(土)

- ①各自の研究授業の指導案を持ち寄り、協議を進めた。
- ②「アフリカ州」の指導案・実践例を3つ持ち寄り、模擬授業を行い、全員で研究協議を行った。  
(協議のまとめについては、2ページ以降参照)
- ③先行事例として、「ICT機器活用の研究について」について都中社研研究部員より報告がされた。
- ④都立高校学力検査問題の解説がされた。

#### (3) 第3回 3月21日(土)

- ①各自の研究授業の指導案を持ち寄り、協議を進めた。
- ②「クリティカル・シンキング」を取り入れた授業づくりについて、模擬授業を行い、全員で研究協議を行った。
- ③協議の中で、以下のことがまとめられた。
  - ・討論テーマの取り上げ方は、生徒の興味・関心を引く題材が望ましい。
  - ・グループ活動は、「思考の深化」のツールとして考える。授業の最後に自分の考えを根拠付けて表現させる活動を取り入れることは重要である。その際、客観的な事実に基づかせる
  - ・公民的資質とは、「価値判断」＋「意思決定」と言える。そのため、思考させる方法として、「順位づけ」という活動を取り入れることは有効である。
  - ・協働型や活動型の授業実践で、多面的・多角的な思考を行わせることは重要である。
- ④歴史的分野の授業における「時代を大観させる指導法」について、教員が実際にやってみることで、教材研究の大切さについて、学んだ。
- ④先行事例として、「探求・協同的な学習で学ぶESD—地理的分野での実践」について、都中社研研究部員より報告がされた。

## 【成果と課題】

### （１）成果

- ①指導案を基に模擬授業や実践報告をし、研究協議において、KJ 法的手法を用いて意見交換をすることにより、よりより実践的な指導法工夫に結びつけることができた。
- ②若手教員対象に、指導法の基礎・基本について、徹底を図ることができた。
- ③先行事例を学ぶことにより、今後の社会科教育の方向性を知る機会となっている。

### （２）課題

- ①若手教員の指導力向上を図るため、引き続き、より実践的な指導法工夫を図る必要がある。

## 【第 2 回研修会 「アフリカ州の実践事例」 協議のまとめ】



### （１）協議の内容

- ①地理的分野 「（１）世界の様々な地域 ウ 世界の諸地域 （ウ） アフリカ州」  
について、グループ活動を取り入れた 3 つの指導事例を報告・模擬授業を行った。
- ②協議方法として、全員がそれぞれの事例について、「良かった点」「課題と考えられる点」「質問」を付箋紙に複数書き、模造紙に貼り、それぞれの意見をグルーピングして、意見交換を行った。最後に顧問の先生からご指導をいただいた。

### <指導事例その 1（抜粋）>

（関東ブロック中学校社会科教育研究会群馬大会 地理的分野公開授業から）

#### 1 単元の目標（8 時間構成）

アフリカ州の自然や文化の特色、産業の動向と歴史的背景、人口問題などと日本の関わりを追求することを通して、アフリカ州の地域的特色を理解することができる。

#### 2 授業の視点

課題に対して、資料から読み取り考察したことを相手に説明したり、それぞれの関連を 4 象限マトリクスを用いて話し合ったりすることによって、アフリカの人々の生活の特色を理解したり、解決策を考えたりすることができるであろう。

#### 3 本時の学習（5 / 8 時間）

##### （１）ねらい

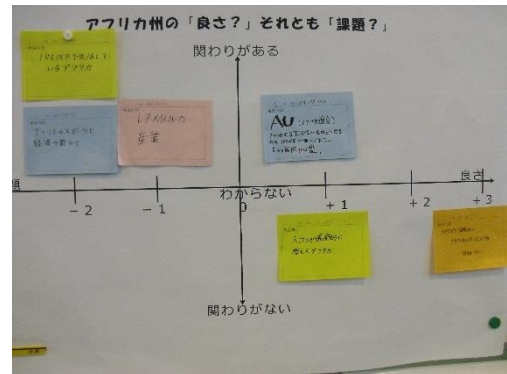
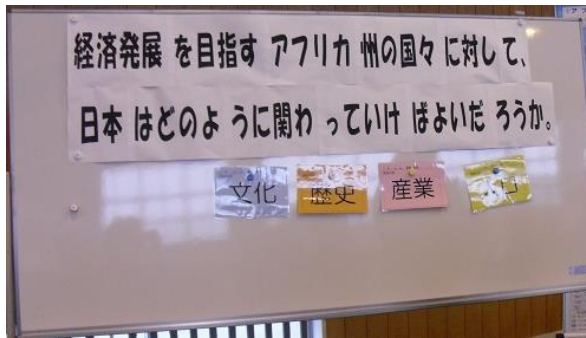
アフリカ州の特色について、テーマごとに調べた内容を発表し、4 象限マトリクスにまとめる活動を通して、自分の考えを根拠に基づいて説明したり、他者からの意見をもとに異なる視点から捉え直したりすることができる。

##### （２）学習活動

「アフリカ州の国々がもつ「良さ」と「課題（可能性）」についてまとめよう」

#### 【4象限マトリクス】

4色のカード「文化」「歴史」「産業」「人口」に書かれたアフリカ州の特色について、「良さ」「課題」「日本と関わりがある」「日本と関わりがない」の視点でマトリクスに貼って意見交換をする。



#### <指導事例その2（抜粋）>

##### 1 単元の目標（3時間構成）

- ・アフリカに暮らす人々の生活の様子を気候・農業・工業・文化などの様々な観点からとらえ、アフリカの地域的特色を理解する。
- ・アフリカ社会の現状をとらえ、それらが抱える問題と解決策について思考し、社会の継続的な発展の大切さについて理解する。

##### 2 本時

###### (1) ねらい

アフリカが抱える問題を明らかにし、アフリカを支援するために私たちができることを考える。

###### (2) 学習活動

「アフリカが抱える問題を明らかにし、アフリカを支援するために私たちができることを考えよう」

#### 【協議から】

- ・視聴覚教材を活用することで、生徒がアフリカについてイメージしやすくなる。
- ・既習事項をもとに、意見交換させていることで、根拠をもたせることができる。
- ・課題追求には、地域的特色を生かした課題提示になるよう工夫が必要。

#### 【指導事例その3（抜粋）】

##### 1 単元の目標（5時間構成）

アフリカ州の地域を大観し、そのうえで人々の暮らしとその変化を主題として設定し、地域的特色を理解する。

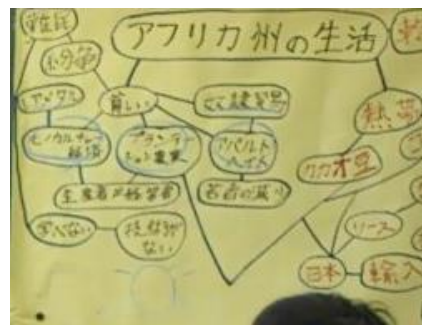
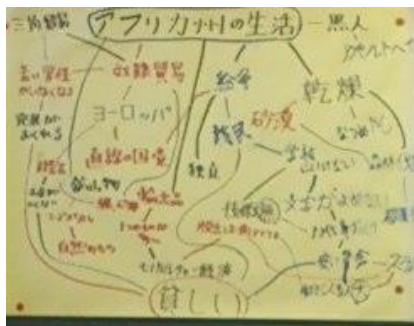
##### 2 本時

###### (1) ねらい

- ・5人班での活動を通して、アフリカ州の特徴とそれぞれの関連を捉える。
- ・アフリカ州の暮らしをつくりだしている要因を多面的に捉え、文章で表現する。

## (2) 学習活動

「アフリカの現状をつくりだす要因をウェビングし、アフリカの特徴を考えよう」



### 【協議から】

- ・ ウェビングの活動を取り入れることにより、生徒の思考を拡げ、整理することができる。
- ・ アフリカの特徴が一元的なとらえ方にならないよう資料の提示方法に工夫が必要。